

(19)日本国特許庁 (J P)

(12) 公 開 特 許 公 報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開平9-127465

(43)公開日 平成9年(1997)5月16日

(51)Int.Cl.<sup>6</sup>  
G 0 2 C 3/02

識別記号 庁内整理番号

F I  
G 0 2 C 3/02

技術表示箇所

審査請求 未請求 請求項の数5 F D (全 4 頁)

(21)出願番号 特願平7-303533

(22)出願日 平成7年(1995)10月28日

(71)出願人 393005934

岡本 剛

福井県福井市大丹生町第51号29番地

(72)発明者 岡本 剛

福井県福井市大丹生町第51号29番地 オカ

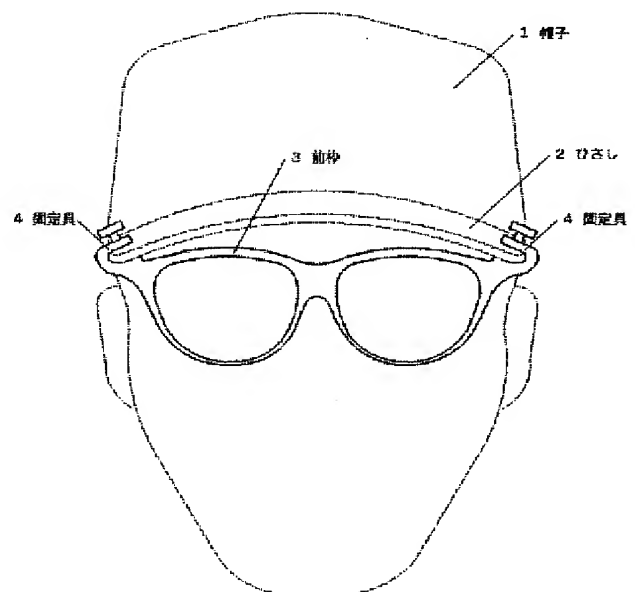
モト ツヨシ

(54)【発明の名称】 帽子取付式眼鏡

(57)【要約】

【目的】 眼鏡使用時の違和感や、鼻等に使用跡を付けたり、眼鏡と接触している所の肌が、汗やほこり等により炎症をおこす心配のない眼鏡を提供する。

【構成】 眼鏡の前枠(3)に、帽子(1)等のひさし(2)部分に固定する固定具(4)を設けた、帽子取付式眼鏡。



## 【特許請求の範囲】

【請求項1】 眼鏡の前枠（3）に帽子（1）等のひさし（2）部分に固定する固定具（4）を設けた、帽子取付式眼鏡。

【請求項2】 前枠（13、23、33、43）と固定具（14、24、34、44）の間に、両者を連結する連結片（15、25、35、45）を設けた、請求項1の帽子取付式眼鏡。

【請求項3】 連結片（25、35、45）に前枠（23、33、43）を回転させる回転連結具（26、36、46）を設けた、請求項2の帽子取付式眼鏡。

【請求項4】 前枠（33）の両端に連結片（35）の長さを調節する調節具（37）を設けた、請求項2の帽子取付式眼鏡。

【請求項5】 連結片をひさしの両端にブリッジ状に渡す、ブリッジ形の連結片（45）にした、請求項2の帽子取付式眼鏡。

## 【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】本発明は、眼鏡に関するものである。

【0002】

【従来の技術】従来、鼻と耳に掛ける眼鏡はあったが、帽子等（野球帽形の帽子、サンバイザー等）のひさしに取り付けられるものはなかった。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】これは次のような欠点があった。

（イ）鼻や耳に眼鏡を掛けると違和感があったり、鼻等に跡が付き不快であった。

（ロ）眼鏡と接触している所の肌が、汗やほこり等により炎症をおこすことがあり不快であった。

本発明は、これらの欠点を除くためになされたものである。

【0004】

【課題を解決するための手段】眼鏡の前枠に、帽子等のひさしに固定する固定具を設けるようにする。また、前枠と固定具の間に両者を連結する連結片を設けてもよい。また、連結片に前枠を回転させる回転連結具を設けてもよい。また、前枠の両端に連結片の長さを調節する調節具を設けてもよい。また、連結片をひさしの両端にブリッジ状に渡す、ブリッジ形の連結片にしてもよい。本発明は、以上のような構成よりなる眼鏡である。

【0005】

【作用】眼鏡の前枠を固定具で帽子等のひさし部分に取り付け取外しする。また、連結片に回転連結具を設けた眼鏡の前枠を前方へ押し下り引くと、前枠が回転して前方へ上がり下がりする。また、前枠に調節具を設けた眼鏡の調節具で、前枠の位置を上下移動する。

【0006】

【実施例】以下、本発明の実施例について図面を参照して説明する。図1において、眼鏡の前枠（3）に、帽子（1）のひさし（2）部分に固定する固定具（4）を設けている。

【0007】図2に示される実施例では、前枠（13）と固定具（14）の間に両者を連結する連結片（15）を設けている。

【0008】図3、4に示される実施例では、連結片（25）に前枠（23）を回転させる回転連結具（26）を設けている。

【0009】図4に示される実施例では、回転連結具（26）で前枠（23）を回転して前方へ押し上げている。

【0010】図5に示される実施例では、連結片（35）に前枠（33）を回転させる回転連結具（36）を設け、前枠（33）の両端に連結片（35）の長さを調節する調節具（37）を設けている。なお、回転連結具と調節具が併用されているが、両者を個々に用いてもよい。

【0011】図6に示される実施例では、連結片をひさしの両端にブリッジ状に渡す、ブリッジ形の連結片（45）にし、その連結片に前枠（43）を回転させる回転連結具（46）を設けている。

【0012】

【発明の効果】本発明は以上のような構成でこれを使用すると、眼鏡の前枠を野球帽やサンバイザー等のひさし部分に取付けるので、鼻や耳で受ける必要がなくなる。これにより、眼鏡使用時に違和感を感じたり、鼻等に跡が付くこともない。そして、眼鏡と肌の接触がないので、汗やほこり等により炎症をおこす心配もなくなり快適である。特に発汗の多いスポーツやレジャー用に最適である。また、連結片に回転連結具を設けると、眼鏡が不必要なときに前枠を前方へ押し上げて置くことができる。また、前枠に調節具を設けると、前枠を上下移動させることができるので、好みの位置に調節できる。また、連結片をブリッジ形の連結片にすると、前枠の強度を軽減することができ軽量化できる。以上のように本発明は、極めて簡単で使用効果の高い物が提供できる。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明実施例の正面図である。

【図2】前枠と固定具の間に連結片を設けた、本発明の他の実施例の正面図である。

【図3】連結片に回転連結具を設けた、本発明の他の実施例の正面図である。

【図4】連結片に回転連結具を設け、前枠を前方へ押し上げた、本発明の他の実施例の側面図である。

【図5】連結片に回転連結具を設け、前枠の両端に調節具を設けた、本発明の他の実施例の正面図である。

【図6】連結片をブリッジ形の連結片にし、その連結片に回転連結具を設けた、本発明の他の実施例の正面図で

3

4

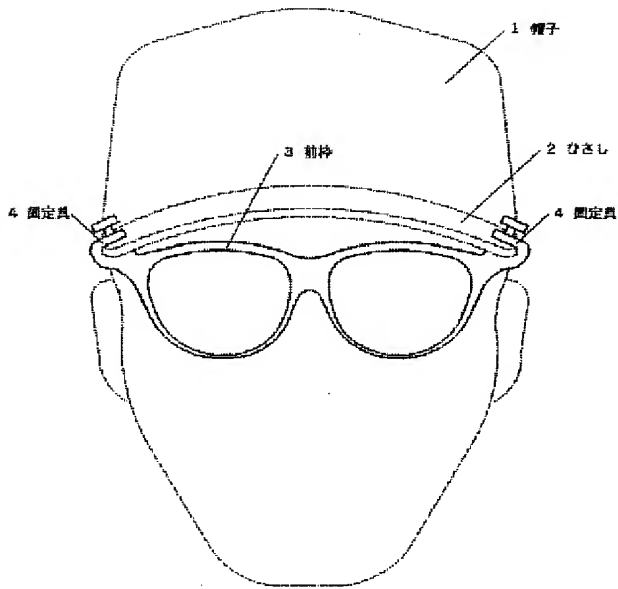
ある。

## 【符号の説明】

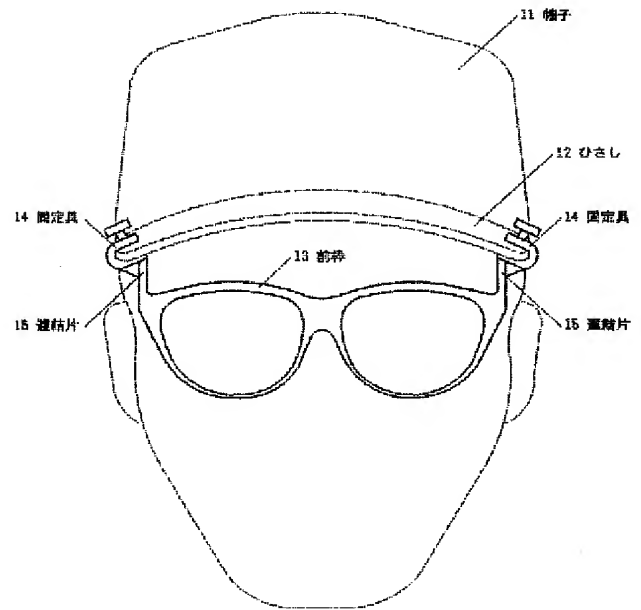
1, 11, 21, 31, 41 帽子  
 2, 12, 22, 32, 42 ひさし  
 3, 13, 23, 33, 43 前枠

4, 14, 24, 34, 44 固定具  
 15, 25, 35, 45 連結片  
 26, 36, 46 回転連結具  
 37 調節具

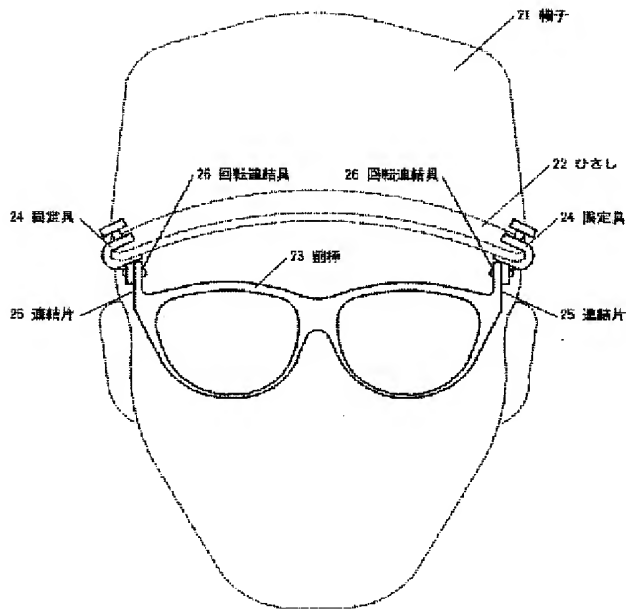
【図1】



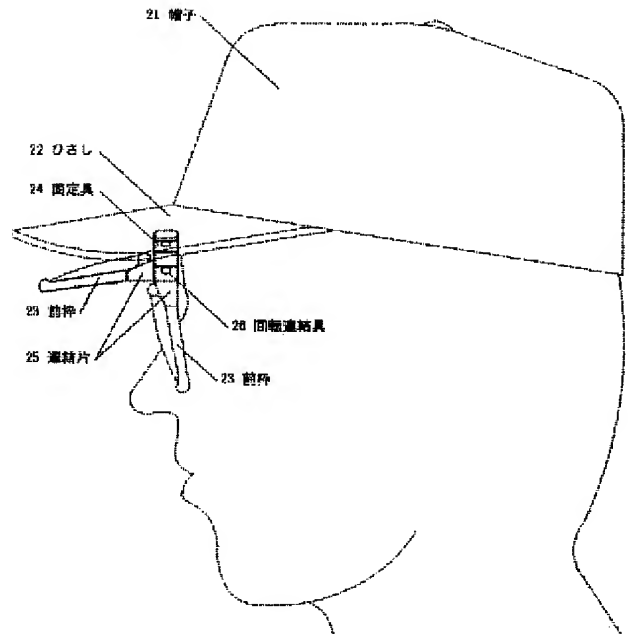
【図2】



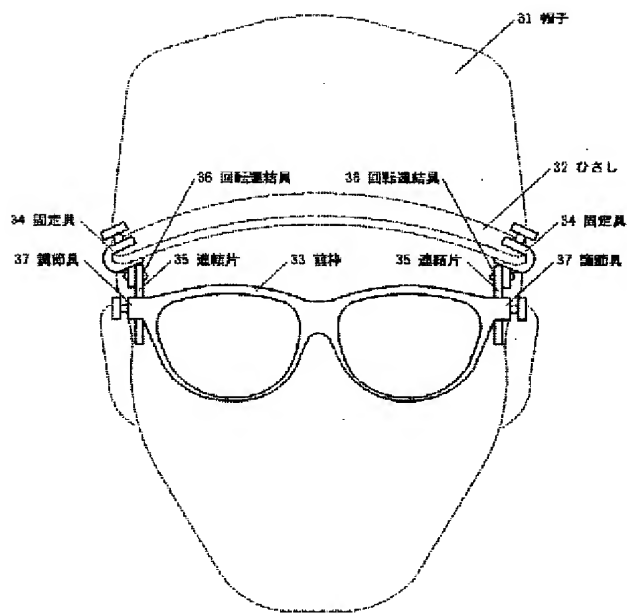
【図3】



【図4】



【図5】



【図6】

